OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	The Interrelationships of Environmental Characteristics, Workers' Perception, Satisfaction, and Productivity in Japanese Offices
Author(s)	Gabor, Nagy
Citation	大阪大学, 2004, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/45019
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

氏名	Gabor (ガボール) Nagy (ナジ)
博士の専攻分野の名称	博士（工学）
学位記番号	第 18749 号
学位授与年月日	平成16年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 工学研究科建築工学専攻
学位論文名	The Interrelationships of Environmental Characteristics, Workers' Perception, Satisfaction, and Productivity in Japanese Offices （日本のオフィスにおける就労者の環境知覚・満足・生産性と環境特性との関係性に関する研究）
論文審査委員	（主査） 教授 舟橋 國男 （副査） 教授 柏原 士郎　助教授 鈴木 毅　助教授 木多 道宏

論文内容の要旨

本論文は、日本のオフィスにおける職場環境を広範な視点から研究するため、その物理的・心理的環境特性と就労者の環境知覚・作業および環境満足度・生産性との複雑な相互関係性を分析したものであり、全9章から成っている。

第1章では、本研究の背景・目的と理論的枠組みを述べ、用語の定義をおこなっている。

第2章では、本研究に関連する分野の既往研究の検討を行い、研究課題に関連する文化的差異を論じた上で、最近の既往研究に見られる成果と矛盾点を明らかにしている。

第3章では、研究の構成と流れを示し、研究仮説モデルの設定およびデータ収集方法論（集団面接調査・現場観察調査・質問紙調査）を検討している。

第4章では、全41オフィスの有効1,026名から得た質問紙調査による主データベースに対する記述統計分析に基づき、職種別・職階別および企業別クロス集計結果を示している。

第5章では、セカンダリースペースに関する就労者の利用と満足を、年齢別・性別・喫煙習慣別に分析している。その結果、関連変数間の有意な相関から、セカンダリースペースの満足度は環境満足度に寄与するという仮説が証明されている。

第6章では、オフィスの配置デザイン・座席位置・自席周辺囲みタイプ等によって媒介されると考えられる、就労者の視覚的・音響的プライバシーならびにコミュニケーションのし易さを分析している。騒音は生産性に対して悪影響を及ぼしプライバシーとコミュニケーションのし易さは生産性を向上させると仮説されたが、主データベースのクロス分析によれば、騒音の影響は認められず、プライバシーとコミュニケーションのし易さは生産性に影響していることが明らかにされている。

第7章では、職場空間の配置・広さ・収納スペース等の物理的特性と、それらに対して就労者が抱く込み合い感・家具快適性・空間個人化など心理的反応との関係を分析している。自席スペースの物理的特性は、環境満足度に対して直接的に、生産性には間接的に影響すると仮説されたが、いずれの物理的・心理物理的変数も生産性には有意な相関を示さず、環境満足度には有意に影響している。環境満足度と生産性とは有意な相関を示さないが、執務満足度とは相関し、次いでそれが生産性と相関するという結果が得られ、仮説は部分的に支持されている。

第８章では、典型的な７つのオフィスについて、それぞれの職場環境の物理的特性と就労者の満足度との関係を分析している。チームワークを支援し易い配置デザインではチームの生産性に対する自己評定が高く、オフィススペースの一人当たりネット面積とオフィスの広さ・込み合い・収納空間の広さに対する知覚には明確な関係は見られてはいない。セカンダリースペースに対する就労者の満足感はスペースの量的特性とは関係性が見られず、質的側面の重要性が示唆されている。

第９章では、論文全体のまとめを行い今後の研究課題を示している。また、ファシリティマネジメントの役割を再検討し、“Work Environment Management”概念を提案している。

論文審査の結果の要旨

建築物の維持管理に関する基本的概念であるファシリティマネジメント（FM）は、従来、主として建物経営ならびに資産管理の観点から建築経済学的に論じられ、実務的な処理が行われてきているが、本来、当該建築物利用者の生活環境としての質とその維持改善こそが最も重要な課題である。本論文はこの立場からFMと環境行動論（EBS）とを結合させた新たな概念の確立を目指す一環として、日本のオフィスを具体的事例として採りあげ、当該職場環境に対する就労者の環境知覚と執務満足度ならびに執務生産性との関連を解明しようとしている。

得られた主な結果は以下の通りである。

(1) 広範な既往研究レビューの結果、オフィス環境条件とその知覚及び満足度・生産性に関する課題の検討には、多数の要因を含む多面的なアプローチが不可欠であることを論じ、FM研究とEBSの両分野を結合させた仮説的な理論モデルを提示している。

(2) 予備的インタビューならびに上記理論モデルに基づいた設問設計による質問紙調査によって、日本のオフィスの全般的特徴として、騒音、執務・収納空間不足、および職場環境不満足が明らかにされている。

(3) 主執務場所に対比して、休息・喫煙・お茶・コピー・打ち合わせ・用便等の行為に対する補完的サービス空間を“セカンダリースペース”と措定し、その満足度は職場環境全体の満足度と有意な関連を有することを明らかにしている。就労者にとって、便所・喫煙スペース・休息空間は最も重要であり、プライバシー・執務関連思索および休息のためのセカンダリースペースの欠如が指摘されている。

(4) 全対象の８割を占めるいわゆる大部屋島型配置のオフィスでは自席周り囲いは最小であり、プライバシーの欠如、騒音による執務阻害が指摘されるが、中程度の囲いを持つフリーレイアウトの場合と大差はない。

(5) コミュニケーションの容易さと視覚的プライバシーは執務生産性に影響するが、騒音は必ずしも関連していない。

(6) 殆どの物理的並びに心理物理的変数は職場環境満足度と有意に相関し、職場環境満足度は執務満足度と、次いで後者が執務生産性とそれぞれ相関する。

(7) 一人当り執務面積は執務者の広さ知覚や込み合い知覚とは明確な関連を示さない。

(8) セカンダリスペースの量的指標と執務者の満足度とは明示的な関連を示さず、スペースの質的水準の重要性を示唆している。

(9) 執務生産性に関連する多数の変数を、執務者の環境知覚や要求を含めて一元的に把握し有効に操作するために、総合的な概念としての“Work Environment Management”を提示している。

以上のように、本論文は、典型的な日本のオフィス環境と就労者の環境知覚・満足度や生産性との関連について、広範かつ詳細で総合的な解明を行っており、建築工学、特に建築計画学の発展に寄与するところ大である。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。